

昭和13年5月1日（日）

朝晴れ、次第に曇り。午後より終に降雨。併し甚だしからず。四時頃より、漸次小歇みとなり、夕方より風出で雨歇む。九時頃より大掃除。下の畳は皆取り出し、塵埃を払ふ。十一時までに片付く。夕飯味飯、四時済ます。澄、久、湯に行けり。昨夜は頗る暖かにて蒲団を取除きたる程なりしが、今日は雨の後冷気を催す。松囃子連も雨の為、意気消沈。其の俣、消滅の姿。

昭和13年5月2日（月）

午後より天神町十七銀行支店に至る。雨傘持参。更新一ヶ年109円余となる。新柳町市場より、黒砂糖一斤十七銭を二斤求め来る。帰路小降りとなる。夕方、久子に夏蜜柑10銭買わす。

昭和13年5月3日（火）

雨天。年金参円久子に受取りに遣わす。午後一時過ぎ、栗原氏挨拶に来宅。少々蒸暑し。講習終了、本日土産物を求め販ると云ふ。先日来訪の際、熊本に転勤を勧められしも、辞して行かざりしと。長男中学四年と云ふ。又本日も泊まって明朝一緒に行くべしと勧めしも、子供が駅まで迎えに来て居り、土産を待ち居りと云ふ。駅にて与えし方、感じがよいらしいとのこと。味がある言葉と思ひぬ。夜おしるこを頂く。

昭和13年5月4日（水）

曇り。七時三十五分出発。徒歩、駅に至る。定時発車。折尾より小学生多数乗込む。下関に至るものの由。詢（まこと）定時到着。中尾氏手紙あり、一日発送。此夜風呂

沸く。蚊に刺さる。福岡以上蚊多し。巖の土曜日釣りたる鮒の内、余の為に残し置き呉る。百余尾を獲たる由。大阪雄工社に注文の鋼書棚売切れ。暫く猶予方、申越しあり。栄町局長臨局。相談所家屋に就いて所長に用談の為、来所の趣。

昭和13年5月5日（木）

曇り。巖に、日本銀行代理店より7, 10銭受取り債券売捌き手数料なることを認め、分配す。守谷是永両氏に、各二銭ずつ増給発令せり。夜節句団子を頂く。夜蚊遣り香を焚き、お蔭で蚊に刺されざりし。細雨降りたるも、甚だしからず。

昭和13年5月6日（金）

朝降りそうで降らず。傘持参せよと云ふを、其の儘出発。途中屢々（しばしば）恠（あやし）まれたるも降らず。出局後、降り出し或いは歇み又降る。飯途、再び歇む。帰る途中、蛭子橋畔（ほとり）にて豊後町事務員に逢ふ。長野氏、局長会に出発日時を問ふ。丸尾氏らしき女性、一揖（いちゆう）して行けるを見る。

昭和13年5月7日（土）

晴れ。永江氏便覧例規類纂加除し居るを、余引受け、処理することとせり。豊後町局代理臨局。局長、月曜日朝七時半にて出発の旨、通知あり。余もお伴致すべき旨話す。

昭和13年5月8日（日）

珍しく此日中津の人となる。朝驟雨、間もなく霽れる。

八時頃より、巖潮干狩りに誘ふ。朝吹氏も同意したるらし。蓋し、余の徒然を慰めん為とも見らる。和博を連れ悦子は花車に容れて出発。途中民家より、搔き棒人数程借り、三百間浜に至り貝拾いす。朝吹氏姉や巖と共に、正午近くまで二升余りを採る。余は三四個を獲たるのみ。概ね悦子を守りす。十一時、姉やを一旦販宅させ午飯を持参さす。余は悦子を連れ陸に上がり遊ばせ居る。姉や来たり、お握り飯等持参す。一同と食しヒロゴを採取、二時頃帰宅。夫れより国債を売る对手を島原先生、菅家原看護婦に擬し、先ず島原先生宅に至る。煉瓦塀内に鯉幟、黒赤数旗翻り居るも入口は堅く鎖して全く留守らし。次いで菅家原氏を訪ふ。此所も外出、止むなく販る。豊後町を通る。丸尾氏、家の前を掃除し居る。兎角無沙汰勝ちにて、母堂没後一度も詣らざりしを想ひ立寄り、仏壇に香を焚き経を誦す。丸尾氏出勤。父親の足立たぬが、長火鉢の前に端座し居るに挨拶し色々話す。利一氏徴兵補充にて入営の処、一昨突然帰来、明日より出勤することとなる由。猶此の人は拾余年腰立たぬ儘なりと云ふ。三時、角の理髪屋にて理髪33、五時帰宅。朝吹氏在宅、此日外出せざりし由。

昭和13年5月9日（月）

午前七時出発、長野氏より五分程先着。切符、通行税二銭を加算1, 12銭。深抹耶馬溪局長等、数名同車。大貞駅よりは同駅前、一つ松岡局長、今津よりは同局長等賑やかに定時着。タクシーにて50公会堂に至る。恰度九時三十分なりし。九時五十分開会。受付係にて出席簿に認め印、押捺。此日局員メタル15、局長分35、計80銭求む。高松監督課長臨監。大分別府各局長主任技術官、

保険院より出張員、放送局よりも局員出席あり。逋信局側より四名臨監す。諮問案協議事項等を議了。午餐の為、五拾分間、其の他適宜五分間ずつ数回休養。六時三十分、一日の日程を終了す。正午の休養時、市内をぶらつく。流川通りへ局舎は立派に出来たり、感心して見る。閉会後一旦休養所に至り、七時半一同と出発、宴会場に行く。七時四十分開会、一時間にて帰る。長野氏と共に、宿に帰り入浴。九時半、余肱枕（ひじまくら）にて横臥す。深抹長酒を飲み初む。余は此等に頓着なく、床を延べて貫ひて寝る。秋永氏余の床の向きを直し呉る。斯く早く床に就きたるも眠られず。

昭和13年5月10日（火）

晴れ、多少曇り。九時半開会と云ふに、昨夜の祟りもあり出揃わず。九時五十分開会。建議案の討議に移る。正午外出の際、ジャボンの丸漬け50銭にて求む。二時二十分閉会。前日、国東局長小野武氏、余の席に来る。日田局長廣瀬氏、流石に陳述する所傾聴に値す。三十九分発車、監督課長同車。此日樂山荘に一泊、明日福岡に至る。そのため秋永氏、金田氏、小川氏等扈從（こじゅう）す。余は知らぬ氣に長野氏と別行動に出づ。中津駅頭に木下氏、ホーム内に村上局長迎ふ。自動車にて中津局に行き、一時間の後、耶鉄にて耶馬溪に至り、夕食後引揚げたる由。支出、泊一円、茶代二十銭。余は局に至り、50銭にて菓子を求め局員を犒（ねぎら）ふ。六時帰宅。ジャボンの土産を出す。

昭和13年5月11日（水）

晴れ。午後一時より国債を携え自ら出掛く。最初鷹雄氏

を訪ふ、不在。三時頃帰ると謂ふ。市長に会うべく市役所に行く。市長は郷土案内放送の為、小倉に行き不在。助役も出張。田渋広吉氏を訪ふ。税務署所得税、調査委員として出頭の由。余は税務署前を通る際、余程署長を説得せんかと思ひしが、それなら再び署長を煩わさんものと出掛けたるに、恰度在署中、部屋に通リ説明す。大いに同情したるも進めて求める資力なしと云ふ。折柄田渋氏来らる。即ち紹介され尽力を依頼す。信用組合に来たれと云わる。次いで再び鷹尾氏を尋ぬ。家にあり諄々説く。直に引取ると言わず、主人と相談して見ると云ふ。斯くて初日は一枚も売れず。

昭和13年5月12日（木）

晴れ。朝九時より三枚を携え、二枚は永江氏心当たり奔走すと云ふ。先ず中学校を見込み客とし至れば、授業開始まで三分間にて、用談し得れば逢ふと云ふ。乃ち同時分、要約して話し同意を得て、中津信用組合に太田正孝氏を訪ふ。取次主任某氏が仲に入りて色々話さる。中津局不深切と謂わる。太田氏に伺いたるに金なしと云ふ。余は甚だ不可解の理由を以て詰問す。太田氏自ら来たり理由を明らかにさる。余寧ろ其の言に共鳴、辞して中津局長を訪ふ（松吉氏二十八日午後四時出勤、銀行は三時半退行。電話取次の者の態度に欠陥あり）。松吉氏とも話して匆々引上げ、鷹匠町に間野氏、仲間町に奥平氏を訪ふ。先者は八年火災に逢へ其の瘡痍（そうい）癒えず。後者はウサヤ佐藤氏の番頭となり不在。次いで商業学校長を訪ふ。同情を得て零時半、田渋氏の昭和信用組合に電話、山本武氏（市議）を訪ふ。未だ何の話も聞き居らず。三時頃、組合新築営造物監督の為、来る筈、

其の時話をすると謂わる。此日も持出した三枚を其の俣持販る。なかなか思ふ様にゆかぬものなるかな。永江氏も今朝商業学校に電話をかけ、知人教員を呼び買上げを委託せし由。猶心当たり持廻りたるも、同じく空しく持戻りぬ。五時過ぎ販れば、前日巖も売捌き呉れんと約せし結果を聞くに駄目らし。

昭和13年5月13日（金）

此朝、巖釣魚に行くとして四時に起床。曩に土曜日出掛け、余にも馳走し能わざりし憾みあり。今回は特に金曜日とし、福岡にも土産に遣わさん意思なりし如し。其の他の理由は、十五日釣魚大会ありて多数の天狗連参会、大魚を自負することとて、限られた魚が減退する惧れあり。其の前に出掛け、獲得する要ありと云ふに在り。前者は巖の言、後者は愛子の言、而して実際は両者を兼ねるらん。此の日初めの間は曇り、後快晴。国債売竭（つ）くせり。永江氏と知人との骨折りらし。午後一時より貯金事故に関し、臨時受取り扱い方を、竹折氏に尋ねべく出発。西田氏に尋ね。次いで昭和信用組合に山本氏を訪ふて、前日の結果を質す。組合としては出来ぬと謂わる。甚だ冷淡なり。余大いに詰問する処あり。此日代引き後、三時半頃通知書持参、受取りに来れる者あり。現物は五時三十分到着。通常配達便に依り送付する規定を座視せしものに付き、中津局に抗議することとす。永江氏扱い通帳50銭、原簿1,00は、臨時払い50銭を受領証を徴し永江氏に交付したるに対し、永江氏より菓子を馳走さる。夜八時巖販り、百余尾概ね鮠（はや）、朝吹氏と折半したるらし。之が腸を抉去（けっきょ）、姉やは之を焼き九時を過ぐ。夫れより巖夕食。十時寢床。

昭和13年5月14日（土）

巖の保険、余代わって掛けて遣る。未だ金の交付なき由。朝窓口に葉書1, 200購入に来る。余十時請求に行き、途中村上局長に会ふ。招魂祭参加と云ふ。各主事、主任電話員等多数従ふ。余前日の代引きの件に付いて通告し、文書を手交付、次いで局に至れば木下氏も帰宅不在。葉書2, 000丈け受取り、十一時前飯局。帰りがけ中島主事と挨拶を交わす。速達便にて中尾氏より書面あり。午後一時、姉や土産物持参、和博連れ来る。一時二十分出発、五時前五分着。鯖の煮附けを造り居る。夕食を済まし新聞を見る。蜜柑を20銭求めしむ。

昭和13年5月15日（日）

曇り後雨、冷気を覚ゆ。九日菅家原氏臨局、生花持参。百合、ダリヤ香り芳ばし。局内に配置さる。毎日気持良く眺め居る。此所に追記す。此日外出せず。ラジオ四時頃断線。夜冷風、毛布を掛く。蚊出です。ラジオ音立てぬ為、九時五十分頃まで新聞を見て寝る。風強く、外戸を締む。

昭和13年5月16日（月）

曇り、雨模様。朝、光の友会より明日例会の通報あり。久子を促し、ラジオを持ち出し相談所に至る。待つ間に修理し呉る。コイル外れなりし。其の儘飯途、久子は市場に買い物に、余は手紙を新柳原局前ポストに投函して帰宅。此の間雨降らざりし、午後も降らず。陽の射すこともありし。手紙数通認む。夕方六時過ぎ投函。七時迄収集のことになり居る。夜のニュースを聴きて十時寝床。

昭和13年5月17日（火）

朝四時二十分起床、五時二十分出発。水鏡天満宮境内清掃。既に桑原氏、其の他二三名掃除して居る。柳原夫人も来られ加勢さる。先生も亦見ゆ。絵馬堂を若者連、拭き浄めらる。七時神様より御供饌（おそなえぜん）を頂き、七時半帰宅。八時朝食を済まし、十時久子と一緒に市場に至り、餅20銭求め販る。薄曇り、北風。午後七時十分より出発。電車内にて星野先生と会す。安国寺には山崎氏、桑原氏先着。此日敬老会にて、余等の集会に対し制限さる。乃ち午後九時乃至九時半まで、退散方達せらる。柳原氏御夫妻の外、知人女一男一を連行あり。時に午後九時、本堂に於いて行事及び例会あり。午後九時四十分閉会の後、星野先生邸を自供され、そこに皆赴く。余は当初其の相談に預からず。皆電車を降りてから気が付きし時は、電車が動き出す。明日帰津の関係もあり、余のみ一行と離れ、十時四十分近く帰宅。

昭和13年5月18日（水）

朝起きて見れば降雨。容易に歇み相もなし。七時パン食を済まし出発。久子に送って貰ふ。和傘を持戻らしむべくバス停留所まで。八時二十分前到着。新聞六銭求め乗り込む。門司に向かう修学旅行女学生あり。小倉よりは立ちん坊、中津に来る。小学生多数、大分行き乗り合わす。十一時三十分着。中津局より文書回答あり。小包は小包便にて回付すと云ふにあり。雄工舎、重要機密書類入れ総鉄鋼棚到着。運賃2, 53銭、永江氏支払い置きあり。夫れを解体し局内に据え附く。午後六時、長靴及び和傘持参しありしを利用し帰宅。愛子雙児（ふたご）らしと云



ふ処から、医師に診せた処、入院の必要ありとて、昨朝より入院附添婦を置き居る旨話す。姉や近所の不幸、家に手伝いに行き、午後四時頃帰り炊事す。夜自転車にて巖見舞いに行く。帰りての話によれば女児二人、分娩長は衰弱甚だしと云ふ。一ヶ月早く産ましめらる。子供等、母の後を追わず夜も割合大人しく寝る。和博寝て居る。便通なしと云ふ故、ヒマシ油を与ふ。夜九時頃便通あり。十時寝む。蚊帳を吊る。奈良の製造元よりの広告、局に来て居るを巖に示す。放送局よりの送金178円余、本日到着せし由。

昭和13年5月19日（木）

長靴にて出勤。九時、勤債利札有効数内のこと、及び例の代金引換のこと質問。恰度、幹部は駅に局員の出征を見送りの為不在。少時待つ間に飯局。村上氏の意見、余と正反対なり。逡信局の見解に任せることとし飯局す。巖夕方、姉やを連れ見舞いに行く。和博を連れ、悦子は余守りし、七時頃負われて眠る。其の儘寝せる。

昭和13年5月20日（金）

曇り、午後より次第に晴れる。ラジオアース不良、見て貰ふ。余り欣ばず、それでも来て呉れる。徐州陥落公報あり。中尾氏より手紙あり。午後五時過ぎ宗谷、是永両氏と飯る。豊田細川病院に愛子を訪ふ。道案内を守谷さんに頼みたる為なり。病院は患者多き為、別に増築中、愛子は玄関を入り右角、リノリウム敷きにて病室にあらず。臨時充当したるらし。附添婦を配して世話して貰ひ居る。両児枕を駢（なら）べて安臥し、湯煖房二個を入れて居るらし。巖も来たり六時頃飯る。双児は何れも女

子。一名は衰弱、顔色幾分白く、吸うことを意識せざる如しと云ふ。入浴す。

昭和13年5月21日（土）

快晴、朝の間冷氣。昨夜蚊が入り当惑せり。朝電報にて福岡に行かぬ由、通告す。更に葉書にて詳細通知す。午後五時飯るさ、細川病院に見舞いに行く。乳が出ぬと心配し居る。赤ん坊は、小切れを茶飲み椀に浸して吸ひ居る。幾らか飲み異状を認めず。三十分間程居り飯る。巖双児生誕の理由を話す。昨年四月入院したる事由を告白す。余は双児が夭折せざるべきを謂ふ。巖風邪。余、勝手に床を展ぶ。

昭和13年5月22日（日）

午前中曇天。次第に雲濃く、午後より降雨。巖餡餅（あんもち）を求め来る。之を愛子に遣るとて姉やに病院に赴かしむ。二時過ぎ雨降り初む。車に和博を容し飯る。三時過ぎ今度は余見舞いに行く。和傘を翳して進む、風相当強し。病室を移し六畳敷きに安臥し居る。今迄はテノルーム敷きベットなり。二階にて病室として初めより造作せしもの。附近に洗面所あり。赤坊を一人抱き乳を含ませ居る。昨夜より乳張り痛むと云ふ。医師は赤坊に吸わせろと云ふ。乳首大きい為、一人は容易に吸わず。他の一人は吸うも多からず。盛んに絞り棄つ、其の色黄色。一時間計り居り飯る。降雨甚だし、夜冷氣。寝巻を被りラジオを聴く。九時四十分、床を展べて貫ふ。十時徐州よりのラジオを聴き寢床。一年有半、図書館より借りたるを読む。

昭和13年5月23日（月）

朝曇り、降雨。漸次霽れる。風強し。昨、巖外出せず。朝吹氏のみ勤務。此日は巖も出勤するものと認む。一両日来、出征軍人多し。十間位の高さに、七日夕（たなばた）様に青竹を結い附けしたるを樹て、蜘蛛手に縁を張り、紙にて日章旗を造りたるをつなぎ、門口は同様国旗を以てアーチ形に埋め盡され、一目瞭然たらしむ。市内より百余名出発する由なり。午後五時過ぎ病院に見舞う。六時帰宅。巖今日も家に静養し居る。猶、赤子長女は良く母乳を飲むも、次女は一向飲まず。痛み甚だしとて、乳を搾りつつあり。

昭和13年5月24日（火）

薄きベールを張れる如く、快晴ならず。午後三時過ぎ、小野栄町長臨局。四時過ぎ飯る。巖窓口に来たり、両児の命名に付いて訪ふ。余、長を智子、次を信子とすべしと紙片に記入し遣わす。今日にて一週間を閲し、届出を要するを認めたるに由る。然るに届出期間は出生後十日までとあり。四時半姫野先生見ゆ。一日講習の帰り途と思ふ。午後五時病院を訪ふ。命名の礼を述べられ面喰らふ。余の試案を其の儘、襲用したる如し。六時、帰途に就く。三十分を要せり。

昭和13年5月25日（水）

晴れ。十時より郵便事務講習会、是永氏を促し行く。切手請求もあり、資金の請求もあり。切手買受け代金を竹折君に納め、資金二千円を受取り、一旦研究会場に臨み十一時飯局。午後、代引き小包を無集配局に送付方、照会に対する回答、逡信局より来る。余の意見と大体一

致するに付き、其の回答文書を持参して会場に再び赴く。頼信紙200枚請求して、講師より休憩時間を利用、質疑す。三時飯局。五時病院を訪ふ。附添婦子供病氣、歸り、別人代わりて世話し居れり。巖一寸見舞いたる由。六時歸途に就く。悦子足裏に釘を踏みしやにて、大いに啼泣し居る。巖繃帯（ほうたい）し居れり。中尾氏より通信あり。夜身体を拭き寢床。蚊多く出て、新聞を見て居る間も刺さる。巖海に釣りし河豚（ふぐ）をとり来る。

昭和13年5月26日（木）

晴れ。給料交付夫々配布せり。貯蓄債権揭示用ビラ枠を求めんとしたるも、適宜、木にて造ることとし、鋸を永江氏借りて来らる。規約貯金一円づつ醵出（きょしゅつ）申合わす。午後五時十分、例に依り病院に廻る。此日、暑熱甚だし。六時十分まで居る。愛子熱下降せず、氷嚢にて腹部を冷着し居る。両児共、乳を飲む様になる。猶甚だ少量にて乳の張る割合に及ばず。入院中の他の五十日になる男の子が、母の入院に一緒に来て居るのに飲まず。一日二三回位、之にて漸く、乳の張るを防ぎつつあり。此日巖に拾円遣る。保険料立替は後日にて宜しと申渡す。夜夕食後、巖と悦子和博を連れて外出。海岸に至り市長邸前を通り歸る。此日号外、宇垣、荒木、池田三元老様入閣の報あり。

昭和13年5月27日（金）

晴れ、暑氣可なり強し。朝は猶冷氣を覚ゆ。巖に来局して貰ふて、ビラ吊り下を完了、枠求めずして解決せり。中尾氏来信。今月末鮮より来る、来月になるかも知れぬとあり。明日、鉄輪局長等当局見学、市内観光後、耶馬

溪に行く。部長も同行すと云ふ。余は明日皈福するとしても、四時の汽車となるべし。須藤氏より案内、明日午後七時より姫野講師を聘して一夜講習を開催の由。五時過ぎ病院に至るに巖猶居る。六時まで話し、嬰兒此の間眠り続け、六時夕食。巖子供を寝かせ己も眠る。姉や床延べに来る。九時十分、更にラジオを聞き十時臥床。永江氏此の朝病院を訪ね、鶏卵三拾見舞いに持参さる。明日葉書請求の筈、巖に話すことを失念す。

昭和13年5月28日（土）

曇り。朝飯後、悦子に強請、闇無神社に行く。龍王町、海老沢山漁獲物を選分け居れり。一旦局に来たりて、葉書運搬方、巖に通知すべきを悟り再び引返す。巖、朝吹氏とカード整理し居る。戸畑の野見山氏より、あけぼの誌贈呈越せり。午後三時十八分、別府市及び附近の三等局長十九名臨局。鶴居局長も歓迎に来津、当局に入り込み窓口設備等を参観。三時五十分、栄町局にタクシーにて向かう。市内観光後、耶馬溪に一泊の筈。余は午後四時三十九分発にて福岡に向かう、八時着。電車一区、南新町より徒歩。八時十分着。恰度秀夫来て居る。中津に誰も来て呉れぬ理由を質す。退院後にする積もりと云ふ。秀夫を前にして諍ふ。甚だ大人気なし。九時夕食、十時半秀夫皈り、十一時寢床。蚊出づ、起きて蚊帳を吊る。下には未だ蚊帳を用いず。蒸し暑く、天気変わり模様。此日汽車中、ラジオ講演講座誌を読み続く。

昭和13年5月29日（日）

新聞二日分見、手紙を認め夕方投函す。雨降りかけたるも本降りに至らず。風強し。昨遅く着せし故、今朝夏蜜

柑20銭求めしむ。久子、明日中津に行くから片道分汽車賃、余に負担せしめんとす。朝八時に同行出来ぬ由を云ふ。明後日出発に延期して、一緒に行くこととす。

昭和13年5月30日（月）

夜半より降雨、終日降り続く。ワイシャツ袖裏返しを澄子に依頼す。雨午後に至り次第に少降りとなり、三時頃歇む。久子に博多駅より回数券を買わしむ。二十一回六拾銭、通行税二十五銭。夏帽子を取出す。澄子に理髪して貰ふ、髯剃る。西の空晴れ明日天気らし。巖より葉書、愛子土曜日午前中、便所に行き卒倒せり。後生氣付き支障なし、貧血の為めと云ふ。

昭和13年5月31日（火）

朝パン食、久子と共に出発。晴天、道路未だ乾かざるもの多し。久子はバス及び電車に、余は徒歩にて駅に行く。四十五分到着、久子新聞を求め来る。定刻乗車。小倉よりは混雑、余の席を久子に譲り立ち居る。次駅にて一度腰掛けたるも、子供を抱きたる婦人の為に席を譲る。斯くして真に安座せしもの二三駅間に過ぎず。暑気強く流汗淋漓す。中尾氏より来信。貢氏よりの分は堤よりの抗議なり。五時より病院行き。巖も既に来て居る。六時、一緒に帰る、此夜、風呂沸く。